

科目名	★博物館概論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	1910101	区分	必修	
英文表記	Introduction to Museology				開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	有木芳隆（非常勤）										
研究室	芸術学部1F 非常勤講師室						オフィス アワー j 授業日講義後の1時間をあてる				
メールアドレス	ariki@pref.kumamoto.lg.jp										
キーワード	学芸員										
授業概要	博物館の誕生に始まり、現代に至る歴史、その担ってきた役割、更に現代社会における博物館の在り方を学ぶ。日本で類似施設を含めると6000館に及ぶ博物館だが、種々の問題を抱えているのが現状である。それらを踏まえ、社会教育施設としての公益性、学術研究の蓄積、芸術文化への貢献など様々な課題を検討し、これからの社会で果たすべき役割について学ぶ。授業では博物館の歴史、人文系・自然史系などの種類、公立や法人立などの設置形態の違いなどを学び、博物館法の基本理念に基づく学芸員としての役割を理解する。また博物館における収集・保存・展示・教育の基本的知識を修得する。学芸員資格取得のための必修単位になる。 フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。							関連科目			
								学芸員資格取得のための必修科目である。博物館展示論、博物館情報・メディア論、博物館資料保存論、博物館教育論などの科目と関連している。			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	世界と日本の博物館の歴史を学び、歴史上果たした役割を知ることができる。									
	②	博物館法・社会教育法などの基本理念を理解することができる。									
	③	博物館の種類と組織形態の違いを知り、日本の博物館が抱える問題を理解できる。									
	④	収集・保存・展示・教育普及など、博物館の基本的事業について理解できる。									
	⑤	専門職としての学芸員が果たす役割や責任について認識できる。									
	⑥	学校教育や地域において博物館・美術館の果たす役割を実例で理解することができる。									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	10	50	0	0	10	30	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	特になし
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	開催中の任意の展覧会を見て、レポートを提出してもらおう。学芸員として展覧会に関わるとしたらどのような展覧会にしたいか、会場・テーマ・出品作品・広報等、博物館の専門職員としての姿勢に立った見解を見せて欲しい。小テストやポートフォリオにより講義内容の理解や学修達成度を見る。また、出席日数も評価する。

レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなします。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館とは何か(1)	対面	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
	内容	熊本県立美術館を実例として、博物館の定義と目的について学ぶ	講義		
2回	テーマ	博物館とは何か(2)	対面	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
	内容	博物館の基本的機能と、学芸員の役割や博物館を支える人々について学ぶ	講義		
3回	テーマ	博物館法について	対面	博物館法を読むこと。	任意
	内容	わが国の博物館を規定している博物館法について、その基本理念と諸制度について学ぶ	講義		
4回	テーマ	博物館学について	対面	事前に提示する博物館学についての資料を読むこと。	任意
	内容	博物館学の目的と構成、研究方法等について学ぶ	講義		
5回	テーマ	博物館の種類	対面	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
	内容	博物館の種類について収集資料や機能などの面から学ぶ	講義		
6回	テーマ	博物館制度について	対面	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
	内容	博物館・美術館の制度や国際的な規約、組織などについて学ぶ	講義		
7回	テーマ	博物館の歴史(1)	対面	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
	内容	博物館の起源と欧米の博物館発達史について学ぶ	講義		
8回	テーマ	博物館の歴史(2)	対面	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
	内容	日本の博物館の発達史と現代の博物館について学ぶ	講義		
9回	テーマ	地域社会と博物館(1)	対面	自分の出身地にある博物館・美術館について調べる	任意
	内容	地域社会と博物館の関係、地域文化財と博物館の役割について学ぶ	講義		
10回	テーマ	地域社会と博物館(2)	対面	熊本地震や令和2年球磨川洪水で被災した文化財について調べる	任意
	内容	地域社会の文化財を護る博物館の役割、実例として熊本地震の文化財レスキューについて学ぶ	講義		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	現代社会と博物館	対面	身近な博物館・美術館などを訪れて展覧会を鑑賞した研究 することが望ましい	任意
	内容	生涯教育機関としての博物館、学校教育に果たす博物館の役割について学ぶ	講義		
12回	テーマ	博物館の仕事(1)	対面	身近な博物館・美術館などを訪れて展覧会を鑑賞した研究 することが望ましい	任意
	内容	展覧会の組み立ての実例と、展示の技術や機材について学ぶ	講義		
13回	テーマ	博物館の仕事(2)	対面	身近な博物館・美術館などを訪れて展覧会を鑑賞した研究 することが望ましい	任意
	内容	博物館の資料収集と保管管理の方法、取扱い技術について学ぶ	講義		
14回	テーマ	博物館の仕事(3)	対面	身近な博物館・美術館などを訪れて展覧会を鑑賞した研究 することが望ましい	任意
	内容	博物館の資料調査・研究、資料写真の撮影技術などについて学ぶ	講義		
15回	テーマ	現代博物館の課題	対面	身近な博物館・美術館などを訪れて展覧会を鑑賞した研究 することが望ましい	任意
	内容	現代博物館・美術館に期待されている事柄、博物館法や文化政策の変化に伴って求められる新しい博物館像について学ぶ	講義		

科目名	★博物館資料保存論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	1910401	区分	選択	
英文表記	Conservation of Cultural Properties in Museums			開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	末永 崇（非常勤） 松本博幸（非常勤） 橋口剛士（非常勤）									
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 講義後の教室及び非常勤講師室				
メールアドレス	splits0926@gmail.com									
キーワード	博物館 美術館 資料 保存科学 文化財									
授業概要	博物館に勤務することを想定して、資料保存に必要な保存科学の知識の習得を目的とする。また、博物館以外でも、資料（自分たちの制作した作品）をどのように取り扱うべきか、学芸員資格を持つ者としての必須の視点を養う。普段の生活のなかで、自分たちが関心を持つものを保存する際に、保存科学的な視点をどこまで持ち合わせられるか。例えば、自らがこれまで制作した作品を置いた場所を思い出し（アトリエ、教室、自分たちの部屋、実家等々）、より良い保存に適した環境に近づけるためには、何ができるのか、何かできることはないか、考えることによって、学芸員資格取得者だからこそ生まれる「資料保存に必要な視点」を身に着ける。 フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付して返却する形で行う。						関連科目			
							博物館関連科目全般（博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論、博物館教育論、博物館実習）			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	身の回りの品の中にある資料の劣化が判り、気付くことができるようになる。								
	②	その資料の劣化原因を想定することができるようになる								
	③	その資料の取り扱い、保護環境改善のアイデアを構想できるようになる。								
	④	の資料に対して、劣化原因を2つ以上、保存環境上評価できる点を一つ以上想定し、善後策を構想できるようになる。								
	⑤									
	⑥									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	60	20	0	20		100	
教科書	人文系博物館資料保存論 雄山閣 青木 豊 ISBN978-4-639-02219-0									
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 編 ISBN978-4-8055-0648-6									

予備知識	博物館、美術館に関する知識、日本史、世界史、
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	講義の内容にそったテーマに関するレポートを作成し、提出する。講義中の感想、疑問等の発言、自ら美術館・博物館に赴いた経験に基づいたコメントは積極的に評価する。

授業以外でなるべく多くの美術館、博物館を訪れ、満足したところを記憶せずに記録すること。正規授業…授業開始15分まで／遅刻出席…授業開始30分まで／30分を超えた場合は欠席扱いとする。コピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	資料保存の意義1	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財保護史(古器旧物保存方～文化財保護法までの法制史)	講義		
2回	テーマ	資料保存の意義2	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	保存科学史	講義		
3回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因1	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	震災の記録、大規模災害時における文化財の保護	講義		
4回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因2	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	経年劣化、生物被害、火災、自然災害	講義		
5回	テーマ	資料保存の意識1—身近な場所での保存方法—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	保存を想定した設計ではない建物(例:文化財資料室)内での事例紹介、身近な場所での資料保存の意識、工夫、或いは簡易な保存方法の事例解説	講義		
6回	テーマ	資料保存の意識2—歴史的・伝統的な保存方法—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	土蔵、桐箱、曝涼等の伝統的保存方法と博物館収蔵庫の考え方、事例、正倉院等の温度変化、寺院仏閣における覆い屋保存の紹介	講義		
7回	テーマ	保存科学の役割1—博物館外—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財資料室、埋蔵文化財センター等博物館以外の施設における保存科学の役割	現地研修 グループワーク		
8回	テーマ	保存科学の役割2—博物館内—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財保護法における公開承認施設、国宝・重文展示の際の保存科学の役割、実習、環境調査時の使用機器と取扱い	実習		
9回	テーマ	資料の取扱いと収納1—博物館外—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財資料室での取り扱い、収納	講義		
10回	テーマ	資料の取扱いと収納2—博物館内—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	内容 高湿度、中湿度、低湿度下で保管する資料の取り扱い、収納。資料を扱う心構え、実習 梱包の実際	実習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元1	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	土器の接合、金属器の錆落とし等出土遺物の整理作業等、主に一次整理の説明	講義		
12回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元2	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	修理と復元、レプリカ展示の意味	講義		
13回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元3	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	鉄器、青銅器、木器等の保存処理	講義		
14回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元4	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	不定期な大規模改修・燻蒸から、IPM、定期的な日常管理へ	講義		
15回	テーマ	博物館学芸員が持つ資料保存の理論を实践するには	対面	これまでの講義内容の整理、まとめを事前に行っておく。	任意
	内容	レポート執筆の時間に充てる 提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます	実習		

科目名	★博物館情報・メディア論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	1910501	区分	必修	
英文表記	Museum Information and Media studies				開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	坂本 尚文(非常勤)										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業終了後またはメール				
メールアドレス	sakamoto.nsts.riku.@gmail.com										
キーワード	美術館 博物館 テレビ インターネット 新聞										
授業概要	博物館情報メディア論は、比較的新しい分野であるが、急速に社会や環境の変化の中で、その価値観が問われている。また、他の分野との結び付きが深く基礎科目である。よって、基本的な活用かもくとして実践的授業を目指す。							関連科目			
								その他の全学芸員課程科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、メディア論など)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館・美術館の展覧会開催状況を把握することができる。									
	②	施設の活動状況について分析することができる。									
	③	自分の中における博物館・美術館の役割と位置づけについて考察することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	20	0	10	10	100		
教科書	なし(講師作成資料)										
参考書	博物館情報・メディア論 ぎょうせい 共著 978-4-324-09584-3										

予備知識	<p>日常の、芸術情報をよく考えて分析する。具体的には、ポスターやチラシなど細目に収集し、ファイリングをすること。また、現在開催されている博物館や美樹幹の展覧会などに注視しネットなどを通して検索しておく。よって、授業では、メディア情報を授業に取り入れるため幅広い情報収集を会得してディスカッションをする。</p>
DPとの関連	<p>学芸員資格課程を履修の過程で情報や専門知識を幅広い社会的な価値感などを分析する能力を身につける。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>レポート(60点)、成績発表(20点)、ポートフォリオ(10点)、その他(10点)</p>

博物館学芸員資格の重要性を認識する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	進化する博物館・博物館情報・メディア論へのいざない	対面	自己紹介情報交換、情報論概論・1.メディア社会の博物館について	60
	内容	授業内容の進め方(オリエンテーション)・学会員になるためには。1.メディア社会の博物館。2.アミューズって何	講義		
2回	テーマ	それは洞窟から始まった【情報とメディアの歴史】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.情報メディアの発達 2.エレクトロニクス社会の登場	講義		
3回	テーマ	博物館はメディア【博物館とメディアの発展.史】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.市民の登場とメディアの技術 2.市民教育施設としての博物館 3.市民教育から参加へ 博物館のあらたな展開	講義		
4回	テーマ	人と人をつなぐメディアとしての博物館【情報とメディアの基礎理論】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.情報・メディアとはなにか 2.メディアと機能と三次元博物館展示 3.変貌する博物館の役割。アウトレットからノートへ	講義		
5回	テーマ	心は環境の中に:博物館【情報メディアの心理と学習理論】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.知覚心理学の流れ 2.認知心理学の発展 3.展示におけるデフォーダンス	講義		
6回	テーマ	新たなメディアへのいざない【博物館メディアリテラシー】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.教育におけるメディア利用のさまざまなまなびのイノベーション 2.タブレット型端末の活用 3.メディアリテラシー	講義		
7回	テーマ	モノが語る・メディアが語る【メディアを活用したさまざまな展示手法】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.メディアの展示手法の構造 2.映像展示のさまざまな 3.美術展示のさまざまな 4.インターネットの活用	講義		
8回	テーマ	世界とつながる博物館【情報収集から情報発信へ】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.世界とつながるインターネット 2.博物館とインターネット	講義		
9回	テーマ	のぞいてみようみよう収蔵庫【デジタルアーカイブ】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.デジタルアーカイブの種類 2.アーカイブの作成技術とその課題 3.デジタルアーカイブの管理と運営	講義		
10回	テーマ	メディアは身体【メディアによるユニバーサル】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.あらゆる人がアクセスできる博物館をめざして 2.さまざまな障がい(害)をこえて 3.多文化教育のために	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	それって誰のもの？ 【情報とメディアの法的な問題】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.学校との連携でのメディアの役割 2.地域メディアとのコラボ 3.アウトリーチ教材	講義		
12回	テーマ	つながる・つなげる博物館 【地域のメディア連携】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.学校との連携でのメディアの役割 2.地域メディアとのコラボ 3.アウトリーチ教材	講義		
13回	テーマ	【展覧会の企画 図録 企画から編集まで】	対面	12回の講義をさらに応用して具現化する	60
	内容	各自のプレゼンテーションとグループミーティング	演習		
14回	テーマ	【ワークシートづくり】	対面	12回の講義をさらに応用して具現化する	60
	内容	各自のプレゼンテーションとグループミーティング	演習		
15回	テーマ	【アウトリーチをつくってみよう】	対面	12回の講義をさらに応用して、具現化する	60
	内容	各自のプレゼンテーションとグループミーティング	演習		

科目名	★博物館実習（3美デ）（通年）				開講学年	3	講義コード	1910901	区分	必修	
英文表記	Museum Practicum : 3rd year				開講期	通年	開講形態	対面	単位数	3	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	学外見学実習 企画(特別)展準備 学外館園実習準備										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得するための必修科目であり、学外館園実習に行く前に履修を開始していなければならない科目でもある。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。フィードバックは、提出されたレポートにコメント入れや赤入れをして返却する形で行う。</p>							関連科目			
								学芸員課程全科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	資料の取り扱いや収集、保管、展示、整理、分類、調査研究の手法を学び、自身でもできるようになる。									
	②	博物館の理念や設置目的、業務の流れを実体験を通して理解できるようになる。									
	③	学芸員としての責任感や意識を身に付けることができるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	0	0	10	60	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	学芸員課程全科目
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。特に4年時の館園実習に先立って、これまで学芸員課程科目の履修のなかで学んだことを総復習しながら、美術館や博物館等の専門家となるための専門的知識や技術の修得を確かなものにするとともに、実践力、汎用力、応用力を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス1	対面	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス①(4月)	講義		
2回	テーマ	仕事の概要	対面	復習	30
	内容	学芸員の仕事1	講義		
3回	テーマ	仕事の概要	対面	復習	30
	内容	学芸員の仕事2	講義		
4回	テーマ	特別展準備	対面	復習、企画書作成・立案	90
	内容	展覧会の種類、企画・立案	講義 実習		
5回	テーマ	特別展準備	対面	企画書作成・立案	60
	内容	特別展の企画・立案、企画書作成1	講義 実習		
6回	テーマ	特別展準備	対面	企画案作成	0
	内容	企画書作成2、担当決定、作品・資料の選定	R-P SGD		
7回	テーマ	学外見学実習1	対面	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学会1回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)	実習 AL PBL		
8回	テーマ	見学会結果報告	対面	なし	0
	内容	見学会1の結果報告、レポート提出・添削	PBL		
9回	テーマ	展覧会準備	対面	復習	30
	内容	出品交渉・依頼方法、借用書の作成	実習 AL		
10回	テーマ	資料の取り扱い	対面	復習	30
	内容	第一次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い1	講義 実習 AL		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	資料の取り扱い	対面	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い②			
12回	テーマ	資料の梱包	対面	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の梱包			
13回	テーマ	資料の計測・実測	対面	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の実測、調書作成の計測			
14回	テーマ	資料の写真撮影	対面	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影①			
15回	テーマ	資料の写真撮影	対面	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影①			
16回	テーマ	ガイダンス2	対面	なし	0
	内容	博物館実習ガイダンス②、第1回事前指導関連書類配布(3年次)(7月)			
17回	テーマ	学外見学実習2	対面	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習2回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
18回	テーマ	見学実習報告	対面	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削②			
19回	テーマ	画像・情報のデジタル化	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化①			
20回	テーマ	画像・情報のデジタル化	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化②			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	第1回事前指導	対面	なし	0
	内容	第1回事前指導(実習申込書提出、希望する実習先に関する報告)(9~10月)	講義		
22回	テーマ	資料・作品カード作成	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成1	実習 AL		
23回	テーマ	資料・作品カード作成	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成2	実習 AL		
24回	テーマ	学外見学実習3	対面	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習(3回旨)(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)	実習 AL		
25回	テーマ	見学実習報告	対面	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削3	PBL		
26回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(ポスター、リーフレット、図録等の原稿作成、原稿執筆依頼)	実習 AL		
27回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(マスコミ、他への広報)	実習 AL		
28回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)1	実習 AL		
29回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)2	実習 AL		
30回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(展示台、展示ケース等の作製・準備)	実習 AL		

科目名	★博物館実習（4美デ）（通年）				開講学年	4	講義コード	1910902	区分	必修	
英文表記	Museum Practicum : 4th year				開講期	通年	開講形態	対面	単位数	3	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	特別展 館園実習										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得する上で必ず履修しなければならない必修科目の一つである。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。</p>							関連科目			
								学芸員課程全科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	資料の取り扱いや収集、保管、展示、整理、分類、調査研究の方法を理解し、自身でもできるようになる。									
	②	博物館の理念や設置目的、業務の流れ等を実体験を通して理解できるようになる。									
	③	学芸員としての責任感や意識を身につけることができるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	0	0	10	60	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で適宜配布する										

予備知識	学芸員課程全科目
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。特に、4年時の館園実習に先立って、これまで学芸員課程科目の履修のなかで学んだことを総復習しながら、美術館や博物館等の専門家となるための専門的知識や技術の修得を確かなものにするるとともに、実践力、汎用力、応用力を身に付ける
実務経験のある教員	
評価明細基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなします。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス(4月)	講義		
2回	テーマ	保険料産出	対面	復習	30
	内容	展示品の保険料の算出	講義 演習		
3回	テーマ	特別展準備	対面	担当分が遅れている人は放課後も作業	90
	内容	展示準備(原稿の出力、のりパネ作成、カットイング、ほか)	実習		
4回	テーマ	特別展準備	対面	なし	00
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)	実習		
5回	テーマ	特別展準備	対面	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)	実習		
6回	テーマ	特別展準備	対面	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)	実習		
7回	テーマ	特別展準備	対面	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)	実習		
8回	テーマ	特別展撤収	対面	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)	実習		
9回	テーマ	特別展撤収	対面	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)	実習		
10回	テーマ	特別展撤収	対面	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)	実習		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
12回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
13回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
14回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
15回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習	実習		
16回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習	実習		
17回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習	実習		
18回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
19回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
20回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)	実習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	事後指導	対面	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)	講義 演習		
22回	テーマ	事後指導	対面	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)	講義 演習		

科目名	★生涯学習概論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910201	区分	必修		
英文表記	Introduction to Lifelong Learning				開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2		
担当教員	本村 由紀博（非常勤）											
研究室	本館 1階 非常勤講師室						オフィス アワー 金曜日第5限目					
メールアドレス	h0004939@m.sojo-u.ac.jp											
キーワード	学芸員 生涯学習											
授業概要	<p>人は生涯にわたる学習により、自己を高め、その学びを社会に生かすことで、より豊かな人生を送ることができると言えます。そして、すべての人が豊かな人生を送るためには、教育基本法第3条に示されるように、国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければなりません。本講座では、時代の流れとともに変化し続ける生涯学習の系譜を学び、「生涯学習とは何か」と常に問いを立て、主体的・対話的な学びができるように、SGD(Small Group Discussion)を取り入れた授業を行います。受講者同志が協力して調べたり、発表したりする学びを通じて一人一人が「分かった」「自分はこうしていきたい」との思いが描けるような深い学びへとつないでいきたいと考えます、15回の講義を通じて、生涯学習の理念が時代とともにどのようにかわってきたのか、法律や中央教育審議会等の答申をもとに考察していきます。さらに、生涯学習が、社会教育の「人づくり」、「地域づくり」、「つながりづくり」にもつながっていることを答申等の中から学ぶとともに、国及び県内外の先進地域の事例をモデルとして考えてきます。講義に際しては、毎回、事前課題を提出するので、自ら調べ講義に参加し、終了後の課題レポート作成を通じて講義を振り返り、学芸員として活躍できる資質・能力を高めていってほしい。</p>								関連科目 本講座「生涯学習概論」では、博物館概論、博物館資料保存論、博物館情報・メディア論、博物館展示論、博物館経営論、博物館資料論、考古学と文化財Ⅰ、Ⅱ及び博物館実習の科目と併せて受講者の理解を深めていく。			
		建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造							
教職関連区分									学修・教育目標			
									JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	専門的職員としての学芸員の使命と果たすべき役割について、生涯学習の観点から具体的に説明することができる。										
	②	生涯学習の歴史的経緯や今後の方向性について、法令や答申等をもとにまとめ、説明することができる。										
	③	生涯学習の観点から、様々な資料を基に社会問題に気付き、その解決策を提案することができる。										
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	40	0	30	10	0	10	10	100			
教科書	担当教員作成のテキスト「生涯学習概論」											
参考書	生涯学習・社会教育行政必携 第一法規 978-4-474-06765-3 生涯学習概論 樹村房 鈴木眞理・馬場祐次朗・葉袋秀樹他 978-4-88367-230-											

予備知識	<p>ユネスコは1946年に創設され、今日では一般的となっている生涯学習の理念もその活動の一環としてユネスコが提唱した概念の一つである。我が国における生涯学習は、1981年(昭和56年)中央教育審議会答申「生涯学習について」、1985年(昭和60年)から第4次にわたる臨時教育審議会答申の中(生涯学習体系への移行)、1990年(平成2年)6月のいわゆる「生涯学習振興法」成立等により、生涯学習推進の必要性が高まってきたところである。以来、中央教育審議会・生涯学習審議会・大学審議会等の各答申が出される中、平成18年には教育基本法が改定され、「生涯学習の理念」(第3条)が新設されている。また、平成30年には、中央教育審議会「第3期教育振興基本計画」の答申がまとめられ、その基本的な方針として、「1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」「2 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」「3 生涯学び、活躍できる環境を整える」「4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する」「5 教育政策推進のための基盤を整備する」の5点が示された。このことにより、物館法第4条に基づく専門的職員としての学芸員も、今後さらに生涯学習の理念の理解とその普及・啓発が益々強く求められることとなっていくはずである。本講座を通じて、学芸員資格の取得のために、他の科目と併せて理解を深めていく。</p>
DPとの関連	<p>生涯学習概論は、学芸員の資格取得のためには「必修」となっている。本講義では、教育基本法第3条に示された「生涯学習の理念」について理解を深めるとともに、今後の教育政策の方向性を踏まえ、専門的職員としての学芸員の使命と役割を理解できるようにしていく。さらに、社会の多様な課題を解決するための課題発見・課題解決能力を身に付けることができよう、学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を生かして、博物館や美術館等の生涯学習施設で芸術や文化の発展に貢献できる力を身に付けることを目指す。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>16回目に定期試験を実施し、15回にわたる講義内容について理解することができたのか、記述・論述の内容をふまえ評価する。また、生涯学習は、その理念をどのように具体的に実践するのかが求められており、講義に関するレポートやワークショップ等での発表、ポートフォリオ等も評価の対象とする。その他、講義への出席状況、参加意欲・態度等も含め総合的に評価する。</p>

本講義では、ユネスコの「生涯学習の理念」及び教育基本法第3条「生涯学習の理念」を踏まえ、生涯学習社会の構築を目指すうえで、専門的職員としての学芸員の資質や能力の育成が求められることから、学習者の積極的な参加態度を期待します。また、正規出席については授業開始5分以内、遅刻出席については授業開始30分までとします。30分を超えた場合は欠席扱いとする。なお、レポート等の提出に際しては、講義内容をもとに自らの考えや体験等を振り返り、具体的に記述し、引用については、出典、参考文献等を明らかにするとともに、他人のレポート等のコピー&ペーストなどは、厳に慎むこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ オリエンテーション	学芸員の果たす役割と学芸員に求められる資質・能力とは？「生涯学習概論」で身に付けるべきゴールが分かる。	対面 講義及びGD	「博物館法」を読んで、これからの学芸員に求められる専門性についてまとめておく。	30
2回	テーマ 学ぶことは平和をつくる	生涯学習は平和を守る？「ひとはず戦争をするのか」について考える。	対面 講義及びGD	日本国憲法前文を読んでおく。また、生涯学習が平和を守るとはどういうことか考え、自分なりの意見をまとめておく。	30
3回	テーマ 権利獲得の道	私たちの学ぶ権利とは？基本的な権利とは何かについて考え、その権利獲得の歴史について知る。	対面 講義及びGD	博物館法」を読んで、これからの学芸員に求められる専門性についてまとめておく。	30
4回	テーマ 生涯学習の始まり	私たちはなぜ、何を学ぶのか？ユネスコ憲章：ユネスコの生涯教育の理念、ポール・ラングラン「生涯教育」、エドガー・フォール「未来の学習」、ジャック・ドロール「学習：秘められた宝」について知る。	対面 講義及びGD	ユネスコの「生涯教育の理念」について読んでおく。また、自分はなぜ学んでいるのか、「何を学ぶかなど学ぶことの意味」をまとめておく。	30
5回	テーマ 日本における社会教育・生涯学習(昭和編)	日本への「生涯学習の理念」の導入はどのようにして進んだか？昭和46年の社会教育審議会答申等をもとに日本における生涯学習の流れを知る。	対面 講義及びGD	昭和46年の社会教育審議会をはじめ、昭和の中央教育審議会答申、臨時教育審議会答申等を読んでおく。	30
6回	テーマ 日本における生涯学習(平成編)	人生100年時代を豊かに生きていくために、私たちは何を学ぶのか？中央教育審議会答申、生涯学習審議会答申等から日本における生涯学習の流れを知る。	対面 講義及びGD	文部科学省HPの平成の中央教育審議会答申・生涯学習審議会答申を読んでおく。また、社会教育法等の法令についてまとめておく。	30
7回	テーマ 時代とともに変化する生涯学習の流れ	審議会答申から見える時代背景と生涯学習の変遷とは？平成18年の教育基本法、社会教育法、博物館法の一部改正等について知る。	対面 講義及びGD	文部科学省HPの平成・令和の中央教育審議会答申・生涯学習審議会答申を読んでおく。また、社会教育法等の法令についてまとめておく。	30
8回	テーマ 学校・家庭・地域の教育力～家庭の教育力～	審議会答申から見える青少年の健全育成の現状と課題は？教育基本法第10条「家庭教育」の意義について知り、学芸員として何が出来るが考える。	対面 講義及びGD	文部科学省HPの平成10年代の審議会答申を読んで、青少年を取り巻く様々な問題についてまとめておく。また、文部科学省HP等をもとに教育基本法第10条「家庭教育」について読んでおく。	30
9回	テーマ 学校・家庭・地域の教育力～地域の教育力～	コミュニティ・スクール「地域学校協働活動とは？教育基本法第13条「学校、家庭および地域住民等による連携協力」の意義について知る。	対面 講義及びGD	文部科学省HPの平成20年代の審議会答申を読んで、教育の新しい流れについてまとめておく。また、文部科学省HP等をもとに教育基本法第13条「学校、家庭および地域住民等による連携協力」について読んでおく。	30
10回	テーマ 生涯学習のまちづくり	熊本の「ひと・こと・もの」をどう活用するか？国内をはじめ、県内のコミュニティ・スクールの取組の現状と課題を知り、学芸員として「ひと・こと・もの」をどう活用するか考える。	対面 講義及びGD	熊本県や各市町村のHPを見て、地域の「人・もの・こと」について事前に配付するアンケートに答える。	30

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	社会問題を解決する～負の遺産をどう残すか～	対面	ユネスコが世界遺産をなぜ作ったのか、その背景や願いについて調べておく。	30
	内容	社会の様々な課題の解決のためにどう取り組み、負の遺産を未来のためにどうつなぐか？ 人類の未来を守り、負の遺産を未来へ引き継ぐためには、私たちがすべきことが分かる。	講義及び GD	S	
12回	テーマ	自分にとっての生涯学習～新しい時代の生き方～	対面	文部科学省HP「第3期教育振興基本計画」を読み、今後は何をしたいかねばならないかまとめておく。	30
	内容	生涯学習は、社会の多種多様な課題を解決できるか？ 第3期教育振興基本計画やSDGsの内容について知り、自分が何を学び、実践していくかを考える。	講義及び GD	S	
13回	テーマ	文化財保護法の理念と世界遺産の意義	対面	「文化財保護法」を読んで、学芸員として文化芸術を守るために必要なことを3点にまとめておく。	30
	内容	文化財保護法が作られた背景は何か。また、世界遺産は作られた理由は何か？ 世界遺産が作られた背景を知り、世界遺産をどう守り、未来へ継承していくか、ユネスコ憲章の前文や文化財保護法をもとに考える。	講義及び GD	S	
14回	テーマ	生涯学習施設としての美術館や博物館の役割	対面	倉敷市にある大倉美術館の創設者「大倉喜八郎」の生き方について調べ、学芸員として何を学んだか3点にまとめておく。	30
	内容	岡山県倉敷市の大倉美術館の取組から何を学ぶか？ 県内の美術館・博物館に取組を知り、学芸員として過去から未来へ何をつないでいくかを考える。	講義及び GD	S	
15回	テーマ	生涯学習指導者(学芸員)としての今後の方向	対面	2030年、世界はどうよになっているか、考えておく。また、生涯学習指導者(学芸員)として、社会を生き抜いていくために必要な力とは何か考えておく。	30
	内容	世界はどこへ向かおうとしているのか？ これからの社会で生き抜く力を付ける生涯学習として、生涯学習指導者(学芸員)としての今後の学習の方向性を知る。	講義及び GD	S	
16回	テーマ	まとめと定期試験			
	内容				

科目名	★博物館教育論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910301	区分	必須	
英文表記	Museum Education				開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	西住欣一郎（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師室				
メールアドレス	k8330712@yahoo.co.jp										
キーワード	博物館の理想的なあり方 博物館の多様な活用事例 利用者主体の博物館										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格の取得をめざす学生の必須科目となっており、博物館の学芸員としての必要不可欠な基礎的知識の一つである。博物館来館者の人々が、博物館によって提供される様々な教育機会を有効的に活用できるようになるには、学芸員の支援が必要である。本科目は学芸員として、その支援ができる能力・技術を身につけるための入門講座である。講義では歴史民俗博物館、美術館、文学館、動植物園、科学館などの様々な博物館の教育的機会を提供してきた先進的な事例を中心に紹介する。さらに、教育機会の理論的な根拠となる教育学の基礎的なことも考察する。講義を通して、博物館教育の基礎とエッセンスを受講者が理解することで、博物館を教育的に活用できる能力をもった学芸員となることができる。このことは来館者と博物館の展示・資料を教育的に結び付けることになり、実社会で生活している人々の生涯学習への欲求を満ち、創造的な生活を営むために必要な学習の場を提供する役割をもつ。</p>							関連科目			
								生涯学習概論(基礎科目) 博物館概論(連携科目) 博物館資料保存論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論、博物館実習(発展科目)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館が提供する教育機会の内容を把握することができる。									
	②	博物館来館者と博物館の展示・資料をつなぐ手法を理解することができる。									
	③	博物館が身近な教育機関であることを理解することができる。									
	④	博物館の教育的活用が来館者の創造的未來を築く一つの要素であることを理解することができる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	80	0	10	0	0	10	0	100		
教科書	使用しない パワーポイント及びレジメを使用										
参考書	なし										

予備知識	博物館や美術館などを見学し、その実態に触れることで、講義内容の理解が円滑にできる。
DPとの関連	美術学科・デザイン学科のDP2の芸術・文化の専門的な知識を身につけたものを基礎とし、芸術・文化を担当する博物館学芸員として必要な基本的な考え方や方法論を取得する。美術学科・デザイン学科のDP3の社会貢献や社会問題の解決能力に関連するものとして、博物館来館者の様々な学習意欲・学習欲求に応えることのできる支援者の役割をもつ学芸員としての基礎的なものを身につける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	定期試験は講義の内容から博物館学芸員として重要な項目について2～3問出題し、設問ごとに記述してもらう。学芸員として必要な知識の理解度を評価基準として採点する。レポートは講義の中間で課題を出します。その課題に対してレポートを提出する。レポートは課題に関する理解度を基準にして採点する。

レポートやポートフォリオは提出期限を守ってください。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館教育の理念	対面	博物館や美術館の様子を実見する(予習)	40
	内容	博物館の目的と資料の種類について学習し、利用者の活動内容についても概観する。	講義・演習		
2回	テーマ	博物館教育の歴史と意義	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	今後の博物館のあるべき姿を展望するために、過去の博物館教育の歴史を概観する。	講義・演習		
3回	テーマ	博物館展示の教育的意義	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	博物館展示の本質から導き出される教育的意義について、利用者側と博物館側の両方に触れながら考察する。	講義・演習		
4回	テーマ	展示と来館者をつなぐ	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	博物館から発信するメッセージの伝達媒体である二次資料を鑑賞を補助する教材として取り上げ、具体的な事例を紹介しながら考察する。	講義・演習		
5回	テーマ	ワークショップー人文科学系博物館ー	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	人文科学系博物館プログラムの中で、来館者の主体学習・相互学習を中心にしたワークショップについて考えてみる。	講義・演習		
6回	テーマ	美術館でのプログラム	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	美術館での教育活動をとりあげる。美術館での学習の中心である鑑賞を補助するワークショップ、ギャラリートークなどを紹介し、そのあり方を検討する。	講義・演習		
7回	テーマ	自然科学系博物館でのプログラム	対面	提示された課題のレポート作成・提出	60
	内容	自然科学系博物館の利用者にとって入口となるような「自然観察会」のプログラムなどの重要性について解説し、その教育的意義について考察する。	講義・演習		
8回	テーマ	資源の蓄積と公開	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	博物館には資料などの様々な資源が蓄積されている。これらは展示や教材として活用されている。博物館が所有しているこれらの資源を社会に還元するための公開について考える。	講義(場合によっては演習)		
9回	テーマ	学校と博物館	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	博物館にとって学校は重要な利用団体の一つであり、また学校にとって博物館は異なる学習体験ができる教育の場である。この両者の効果的な連携のあり方について検討する。	講義(場合によっては演習)		
10回	テーマ	家族と博物館	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	家族が博物館の対象グループとして意識され、プログラムが開発されたのは最近のことである。家族と博物館の効果的な連携を可能にする博物館教育のあり方について考察する。	講義(場合によっては演習)		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	地域と博物館	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	生活に密接した地域での博物館の活動を通じて、新たな視点で地域が捉え直されている。利用者と地域の文化資源を結び付け、地域の人々に還元する循環の重要性について検討する。	講義(場合によっては演習)		
12回	テーマ	アクセス可能で利用しやすい博物館	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	障害のある人のニーズに対応する博物館教育は、鑑賞の前提となる知覚や学習法などの知見が必要である。このことは、あらゆる人向けの教育に通じる。先進的な取り組みを紹介しながら、アクセス可能な博物館について考察する。	講義(場合によっては演習)		
13回	テーマ	博物館教育活動と評価	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	近年、博物館は教育施設としての評価が求められるようになってきた。米国の来館者研究や日本での評価の事例を紹介し、その意義と課題について考える。	講義(場合によっては演習)		
14回	テーマ	利用者主体の博物館教育の展望と課題	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	これまで学んだことを総括し、日本の博物館の特徴や現状の課題を概観した上で、今後の博物館の展望とその実現のための取り組みについて考察する。	講義(場合によっては演習)		
15回	テーマ	定期試験	対面		90
	内容	提示された設問に記述式で解答する。	試験		

科目名	★博物館経営論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2910601	区分	必修	
英文表記	Theory of Museum Management				開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	清田純一（非常勤）										
研究室	芸術学部棟 1階事務室						オフィス アワー 授業終了後の非常勤講師控室				
メールアドレス	@										
キーワード	博物館運営 博物館経営										
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。博物館を経営という視点から見ていく。学芸員となった場合の基礎的な知識と技術を理解し、身につける。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。</p>							関連科目			
								その他の全学芸員課程科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館を博物館経営の面からみる方法を十分理解することができるようになる。									
	②	博物館を巡る社会的状況について十分理解できるようになる。									
	③	博物館の表には表れない事象について理解できるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	40	40	0	0	10	10	100		
教科書	授業の中でその都度、教示する										
参考書	ミュージアム・マネージメント博物館運営の方法と実践 東京堂出版										

予備知識	博物館教育論・博物館概論・博物館情報メディア論・博物館展示論・博物館資料論・博物館資料保存論
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	基礎的な事項から講義を積み重ねていくので、授業に出席し、講義を聞くことが必要である。授業の取得の評価は、小テストやレポートの他、授業中の受講態度で判断するので、授業への積極的な参加が望まれる。

同上。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館経営とは	対面	配布資料の復習	90
	内容	経営学の立場から「経営」とは何かを説明したのち、博物館の「経営」の範囲を見ていく。	室内講義		
2回	テーマ	博物館を取り巻く人々と社会	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の価値と公共性、博物館への公的支援の根拠、博物館広報の在り方等について講義する。	室内講義		
3回	テーマ	博物館の人材、行財政	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館が社会的機能を果たすための制度、組織人材や行財政制度、個別の予算システム等についてその現状と課題について講義する。	室内講義		
4回	テーマ	博物館経営①；国立博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の財務情報を通じて国立博物館の経営を開示し、財務諸表の数値に基づき独立行政法人科以降の国立博物館の財政状態について理解を深める。	室内講義		
5回	テーマ	博物館経営②；公立博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	公立博物館のマネジメントについて、指定管理者制度導入の博物館、直営の博物館にの例を取り上げ今後の地域博物館のあり方について考える。	室内講義		
6回	テーマ	博物館の経営③；民間の博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	民間の博物館経営；運営の特徴を把握し、それが公立の博物館にとって、どのような点で参考になるか考える。	室内講義		
7回	テーマ	博物館の経営④；企業博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	公的な性質を有した主体が設立した博物館と企業博物館の違いについて、CSR、企業博物館の分類について講義する。	室内講義		
8回	テーマ	博物館の経営手法①；マーケティングと利用者調査の手法	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(3)マーケティングの基本的枠組みを紹介し、博物館の求められている経験について検討し、利用者調査について具体的な事例を紹介する。	室内講義		
9回	テーマ	博物館の経営手法②；使命と評価	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館に評価が導入された背景、評価の際の重要性、および博物館を評価する手法およびシステムについて紹介する。	室内講義		
10回	テーマ	博物館における連携①；他館・他機関・学協会	対面	配布資料の復習	90
	内容	他館、他機関、学協会との連携について相乗効果や新たな価値の創造の視点から説明する。	室内講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	博物館における連携②市民・地域社会その1	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の運営にどうして、市民や地域社会との連携がいかに重要であるかを生涯学習と地域振興の視点から解説する。	室内講義		
12回	テーマ	博物館における連携③市民・地域社会その1	対面	配布資料の復習	90
	内容	ボラジティ・市民・地域社会といった博物館における連携について、連携相乗効果・新たな価値の創造といった視点から説明する。	室内講義		
13回	テーマ	博物館における危機管理	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館におけるリスク・マネジメントについて博物館の直面する事象を基に説明する。	室内講義		
14回	テーマ	博物館倫理・行動規範	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館関係者に求められる職業倫理について代表的な倫理規定とその考え方について紹介する。	室内講義		
15回	テーマ	海外の博物館経営	対面	配布資料の復習	90
	内容	海外の博物館の経営手法について、海外の博物館行政や制度について概説する。	室内講義 小テスト		
16回	テーマ				
	内容	課題レポート提出			

科目名	★博物館資料論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2910701	区分	選択				
英文表記	Theory of Cataloging and Curation for Art Museum Collection			開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2				
担当教員	村上哲（非常勤）												
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業終了後の教室							
メールアドレス	artcuration0912@gmail.com												
キーワード	美術館 第一次資料 絵画 版画 彫刻												
授業概要	博物館資料／美術館資料とは、博物館／美術館の活動の基底・基軸に位置づけられるものである。本講義ではこの観点に基づき、美術館資料の概念と位置づけ、キュレーターの役割と使命、作品の構造分析と歴史研究・調査・研究・取扱い、ミュージアリア(Musealia)からミュージアライゼーション(Musealisation)への展開、コレクションの形成・構築と収集の体系化への視座、作品資料の分類・管理・保存・継承を理解するとともに、内外の美術館の具体的な美術館資料を用いての課題研究と演習を通じて、博物館資料／美術館資料に関する基本的知識と普遍的概念を修得し、博物館学の他の科目の項目へも横断的に言及しつつ、芸術文化の存在意義と課題を考える。							関連科目		その他の全学芸員課程科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等)			
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造		
教職関連区分								学修・教育目標					
								JABEE基準					
JABEE記号	学生の到達度目標												
	①	美術館資料の概念と位置づけ、作品資料の調査・研究・取扱いの技術と知識を学ぶことにより、文化芸術への高度な専門性を獲得すること。											
	②	コレクションの形成・構築と収集の体系化への視座、作品資料の分類・管理・保存・継承を理解することにより、文化芸術への高度な専門性を獲得すること。											
	③	美術館の具体的な美術館資料を用いての課題研究と演習プレゼンテーションを通じて、文化芸術への高度な専門性を獲得すること。											
	④												
	⑤												
	⑥												
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計				
	0	0	0	50	20	0	10	20	100				
教科書	ランス美術館・絵画コレクション展展覧会図録 ランス美術館展主催機関 ランス美術館、村上哲 他 パリ国立図書館・版画コレクション展展覧会図録 パリ国立図書館版画コレクション展主催機関 パリ国立図書館、村上哲 他 キスリング・エコール・ド・パリの巨匠展 図録 キスリング展主催機関 マイテ・ヴァレス=ブレッド、村上哲 他 THE CURATOR'S HANDBOOK フィルムアート社 エイドリアン・ジョージ著												
参考書	新博物館学教科書 博物館学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 株式会社 学文社 大堀哲、水嶋英治 978-4-7620-2284-5 ほか 博物館展示論 株式会社 講談社サイエンティフィック 黒沢浩 978-4-06-156531-9												

予備知識	博物館学の他の科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等)の項目へも横断的に言及しながら、芸術文化資料の総合的な理解を目的とするため、体系的・包括的な考察を心がけること。
DPとの関連	学芸員資格課程を履修することで培った基礎知識や専門知識、理論的思考力、芸術的視点を活かして、社会で美術館などの文化施設における高度の専門家(キュレーター、レジストラ、コンサバター等)として、文化や芸術の発展に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート(50点)、成果発表(20点)、ポートフォリオ(10点)、授業態度・積極性(20点)

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	博物館資料／美術館資料の概論およびキュレーター(学芸員)という職業についての概念と役割、本課目のオリエンテーション	対面	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	博物館／美術館の活動の基底・基軸となる博物館資料／美術館資料の概論およびキュレーター(学芸員)という職業についての概念と役割を学び、本講義のスケジュールと履修内容についてのオリエンテーションを行う。	講義		
2回	テーマ	博物館資料／美術館資料の概念の形成・構築、調査・研究法と取扱い(1)	対面	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	学芸員として必要な博物館資料／美術館資料の概念・調査・研究法と取扱い(1)の枠組みで、ミュージアリア(Musealia)からミュージアライゼーション(Musealisation)への展開、作品の構造と歴史への視座を学ぶ。	講義、レポート課題		
3回	テーマ	博物館資料／美術館資料の概念の形成・構築、調査・研究法と取扱い(2)	対面	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	学芸員として必要な博物館資料／美術館資料の概念・調査・研究法と取扱い(1)の枠組みで、ミュージアリア(Musealia)からミュージアライゼーション(Musealisation)への展開、作品の構造と歴史への視座を学ぶ。	講義、レポート課題		
4回	テーマ	博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(1)	対面	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	国内美術館、県内美術館の事例を検証しながら、博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(1)(ヴィジョン・方針策定、作品リサーチ、所蔵者リサーチ、作品研究、来歴調査)に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義、レポート課題		
5回	テーマ	博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(2)	対面	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	国内美術館、県内美術館の事例を検証しながら、博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(2)(関連作品調査、対外交渉、内外調整、借受・保管・管理、購入・寄贈・収集)に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義、レポート課題		
6回	テーマ	絵画資料(油彩画、素描)の調査・研究・活用・分類・管理・保存	対面	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	美術館資料のうち、絵画資料(油彩画、素描)の調査・研究・活用・分類・管理・保存の方法を、フランス近代絵画(藤田嗣治/レオナルド・フジタ、エコール・ド・パリ関係等の作品)を研究素材にして学ぶ。	講義、レポート課題		
7回	テーマ	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵の絵画作品の調査研究と企画実例検証	対面	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵のキスリジグ作品による作品の調査研究と企画構成の実例を学びながら、調査研究と企画実例検証に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義		
8回	テーマ	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵の絵画作品の調査研究と企画実例検証	対面	配布資料を再読して、講義と演習から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵のキスリジグ作品による企画実例を学んだことを踏まえて、コレクションの内容研究と企画構成(作品目録作成、調書作成、文献資料編纂、展示構成案の作成)に取り組む。	講義、演習		
9回	テーマ	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵の絵画作品の内容研究・企画構成演習のプレゼンテーションと講評	対面	配布資料を再読して、講義とプレゼンテーションから学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵のキスリジグ作品による内容研究・企画構成に取り組んだ公開プランのプレゼンテーションを実施し、各自の情報共有と意見交換、講師による講評を行う。	講義、プレゼンテーション		
10回	テーマ	版画資料(西洋古典版画、近代・現代版画)の調査・研究・活用・分類・管理・保存	対面	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	美術館資料のうち、版画資料(西洋古典版画、近代・現代版画)の調査・研究・活用・分類・管理・保存の方法を学ぶ。	講義、レポート課題		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションの調査研究と企画実例検証	対面	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる作品の調査研究と企画構成の実例を学びながら、調査研究と企画実例検証に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義		
12回	テーマ	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる内容研究・企画構成演習	対面	配布資料を再読して、講義と演習から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる企画実例を学んだことを踏まえて、コレクションの内容研究と企画構成(作品目録作成、調書作成、文献資料編纂、展示構成案の作成)に取り組む。	講義、演習		
13回	テーマ	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションの内容研究・企画構成演習のプレゼンテーションと講評	対面	配布資料を再読して、講義とプレゼンテーションから学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる内容研究・企画構成に取り組んだ公開プランのプレゼンテーションを実施し、各自の情報共有と意見交換、講師による講評を行う。	講義、プレゼンテーション		
14回	テーマ	県内美術館視察見学研修(熊本県立美術館、熊本市現代美術館)	対面	配布資料を再読して、講義とプレゼンテーションから学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	県内美術館視察見学研修(熊本県立美術館、熊本市現代美術館)を実施し、美術館における美術館資料の調査・研究・活用等の実際を学ぶ。	講義、視察研修		
15回	テーマ	博物館資料／美術館資料に関する総括と展望	対面	講義全体を通して学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	博物館資料／美術館資料に関する総括と展望を行うとともに、博物館学の他の科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等)の項目に言及し、芸術文化資料の総合的理解度を確認する。	講義、演習		
16回	テーマ				180
	内容	レポート作成			

科目名	★博物館展示論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2910801	区分	選択	
英文表記	Museum and Exhibition Studies			開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	中村 玲史（非常勤）									
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業時間後の講義室				
メールアドレス	co07gito@gmail.com									
キーワード	キュレーターの役割 展覧会の企画、開催 展示空間のデザインと展示の実務									
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。授業概要 1)キュレーターという存在とその役割について理解する。2)展覧会のアイデアを実際の企画として立案していく過程について理解する。3)展示空間のデザインと展示の実務について考察する。4)作品の配置、照明、鑑賞素材の準備など、来場者にとってより良い鑑賞の場を提供することについて考察する。5)予算、交渉、契約他、展覧会を支える諸業務について理解する。学修上の助言 1)テキストは前もって読んでおくこと。2)コメントシートは毎回提出すること。2)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて日頃から関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つこと。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。</p>						関連科目			
							関連科目 1)日本美術史 2)考古学と文化財Ⅰ、Ⅱ 3)生涯学習概論、博物館教育論、博物館概論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	キュレーターという仕事の内容と役割を認識し、展覧会のアイデアを現実化し、展覧会を開催して終了するまでの一連の業務について理解することができる。								
	②	自己の目指す学芸員のあり方を明確にし、スキルを高めようとするすることができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	60	0	0	10	30	100	
教科書	THE CURATOR'S HANDBOOK フィルムアート社 エドワード・ジヨン 978-4-8459-1561-3									
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 東京文化財研究所 978-4-8055-0648-6 学芸員のための展示照明ハンドブック 講談社 藤原 工 978-4-06-156521-0 美学入門 朝日新聞出版 中井正一 978-4-02-259132-6 美について 講談社現代新書 今道友信 978-4-06-115724-8									

予備知識	予備知識 1)日本美術の流れや時代ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。2)西洋美術の流れや時代、国、地域ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。
DPとの関連	芸術学部の diploma policy には次の3項目が掲げられている。1)美術やデザインの研究活動を通して培った豊かな感性と社会人として相応しい倫理観を身に付けたもの。2)美術・デザイン領域の専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付けたもの。3)社会における美術・デザインの役割を認識し、現代の課題を発見・解決する能力を身に付けたもの。学芸員養成課程の科目はこの何れとも密接な関連を有する。特に、3)の「社会における美術・デザインの役割を認識し、現代の課題を発見・解決する能力を身に付けたもの」は、美術館や博物館において、資料の収集と保存、調査研究、展覧会の企画、教育普及等に取り組み、一般社会と美術・芸術との接点を創造していく学芸員の資質として重要なものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1)受講生は毎回の講義でコメントシートを記入し、提出する。コメントシートは、授業者にとっては、受講生が授業内容をどのように受け止めたか、それについての考察はどうか、という点を把握するためのものである。受講生にとっては、授業内容を整理し、さらにそこから派生する自己の課題と向き合うためのものである。2)受講生は課題レポートを提出する。課題レポートは、提起された課題に沿ってテーマを設定し、借り物ではない自分の言葉で、論理的にテーマに迫っていくものである。この科目の評価の重要な部分を占める。3)以上に加えて、授業態度等を加味して評価を行う。

1)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つように心掛けること。会場で気付いた事柄は、その都度メモを取っておくようにする。その際にはインクを用いたペンではなく鉛筆を使用すること。2)指定の教科書にとどまらず、参考書、関連図書に挙げた書籍も読んでおくことが望ましい。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学ぶにあたって1 美とは何か	対面	復習:配布資料の再読	30
	内容	美しいといふことの意味、芸術とは何か（「美学入門」より）	講義		
2回	テーマ	学ぶにあたって2 美は存在の恵みである	対面	復習:配布資料の再読	30
	内容	美は人間にとって思えば思うほど、貴重な価値ではなからうか（「美について」より）	講義		
3回	テーマ	キュレーターとは	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	キュレーターとは何か、キュレーターの種類等	講義		
4回	テーマ	展覧会の企画	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	デザインとインスピレーション、展覧会概要の文書化、展示作品のリスト作成等	講義		
5回	テーマ	展覧会の予算と資金調達、交渉、契約	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	予算の編成、スポンサーの獲得、交渉、契約、展覧会のスケジューリング等	講義		
6回	テーマ	展覧会の出版物、広報物	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	カタログ作成、執筆依頼、著作権、冊子やパンフレット、ポスター・チラシ等	講義		
7回	テーマ	展示空間のデザイン、空間と来場者	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	空間を歩いての展覧会デザイン、作品の配列、グラフィック、空間と来場者アクセス等	講義		
8回	テーマ	作品借用関連手続き、作家との共同	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	借用依頼、設備の報告、作家や作品貸与者との交渉、作家と共同する場合等	講義		
9回	テーマ	作品輸送と受入れ	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	保険・補償、輸送、作品到着後の対応等	講義		
10回	テーマ	解説素材の執筆と作成	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	キャプション、コーナーパネル、リーフレット、プレスリリース、広報資料等	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	作品展示設営	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	作品の取り扱い、展示設営スケジュール、作品の固定、展示備品等	講義		
12回	テーマ	照明	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	既設のシステム確認、作品素材による照明レベル、空間の快適性と光等	講義		
13回	テーマ	スタッフの共通認識、オープン	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	スタッフの共通認識、セキュリティ対策、展覧会オープン等	講義		
14回	テーマ	会期中の業務、イベント関連	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期中のルーティンワーク、イベント、教育普及、問い合わせ対応等	講義		
15回	テーマ	作品撤収、返却 講義のまとめ	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期終了後の作品撤収、返却等	講義		